

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	聖隷放課後クラブはなえみ和合				公表日	2026年 3月 30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・こどもの人数に応じて、各クラス・グループにて部屋を使い分けている。	・こどもがより落ち着いて過ごす空間作りや部屋の使い分けに努めていく
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	5	・クラス担任制にしている。 ・こどもの状態に応じて、応援体制を整えている。	・事前にこどもの状態の想定をし、状態に応じた対応ができるように職員配置を考えておく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・エレベーターや多目的トイレがある環境。 ・こども達に視覚的にも伝わるようにスケジュール等をこどもの目線に合わせて表示している。	・こども達が「見てわかる」提示の仕方を今後も取り組み続ける
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	・こども達と一緒に掃除をしている。 ・活動内容や人数に応じて使い部屋を考慮している。	・心地よく過ごせる環境について、こども達と一緒に考えながら取り組みを続ける
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・クールダウンできるようスペースを確保をしている。	・こども達と使い方や過ごし方のルールを一緒に考えながら環境を整えていく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	・会議に参加できない職員には事前に書面で意見をもらっている。	・意見の集約、会議以外での情報共有の仕方を検討していく
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・保護者向けアンケートを基に改善点を挙げ、次年度の事業計画を作成している。	・保護者全員に回答していただける働きかけ、よりご意見をいただけるような働きかけをしていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・職場会議にて意見を出し合いながら課題解決に向けて検討をしている。参加できない職員へは事前に聞き取りをしている。	・改善した内容を全職員に周知できる仕組みを作る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	・第三者による外部評価を実施し、評価結果を職場会議にて周知し事業計画に反映した。	・全職員に外部評価の内容と結果をタイムリーに伝達できるようにしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・年間計画に沿って研修を実施。複数の職員が事業所内研修の他にも法人内研修や外部の研修に参加をした。	・研修機会は確保されているので、研修での学びを支援に活かしていく取り組みを継続していく。
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・支援プログラムの見直し、作成に全職員が参画をした。	・全職員での見直しを今後も継続して取り組んでいく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		・ツールを用いたアセスメントと、こども、保護者の意向を確認したうえで作成をしている。	・こどもの今の姿を捉え見立てる力を向上できるようにチームとして取り組んでいく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・職員参加のカンファレンスにて計画を作成している。	・こどもの声から想いを汲み取れるようになるための職員の資質向上の取り組みが必要である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・計画内容をまとめた表を用いることで共有を振り返りができている。	・こども達が過ごすさまざまな場面において支援の展開をより深く考えていく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	・ツールの活用と日々の振り返り、保護者や学校との情報共有にて状況の確認をしている。	・医療機関等他機関で実施した検査結果や学校の支援計画を共有する取り組みを継続していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・支援内容については、具体的に設定するように努めている。	・個別支援計画立案についての学びを継続していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・クラス、グループ単位のチームにてプログラムの立案をしている。	・こどもの声を反映しながらクラス、グループ単位での立案の取り組みを継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・こどもの希望を聞きながら、月ごとに活動プログラムを作成している。	・こどもの「やりたい」活動を実現する取り組みを始めたため継続をしていく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	・集団が苦手な子どもには活動参加の方法を個別対応にしている。 ・個別の関わりが必要な子どもには時間や場を設けている。	・計画的な個別活動が実施できる体制を整えていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎日、打ち合わせを行い確認をしている。 日案に記載し確認できるようにしている。	・日案を用いて、流れや配慮事項について職員間で共有をし行っていく仕組みを継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	4	・緊急性のある内容については当日中に振り返りを行っている。翌日の打ち合わせで確認や共有をしている。	・支援終了後、全職員にて振り返りをする時間を設定していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	・主にクラス職員が記録をしている。	・日案や計画内容をまとめた表を用いて記録を残す取り組みを継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	2	・6ヶ月毎に行っている。状況に応じて、見直しをしている。	・必要時にタイムリーに支援計画の見直しができるような仕組みを作る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		・「4つの基本活動」を複数組み合わせ活動プログラムを立案している長期休みには外出、年齢の幅を超えた交流の機会を設けている。	・長期休みの外出の機会を増やしていけるように計画をしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		・過ごす場所、気持ち等を選択できるようにしている。二者択一であったり表示したものの中から選ぶことをしている。	・こども主体、こども発信の取り組みを継続していくこと。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・事前に情報共有をしたうえで児童発達支援責任者が参加をしている。開催時間によりクラス職員の参加する。	・クラス担任が会議に参加できるように調整をしていく
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	・相談支援事業所を通じて連携を図っている。 ・学校との情報交換会や学校公開に参加をした。	・会議にて全職員がこどもに関する関係機関を周知する取り組みを継続していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・学校の年間計画や下校時刻表は保護者を通じて確認をしている。 ・送迎時の対応は、年度初めに学校に確認をしている。	・送迎時の対応やトラブル発生時の連絡を対応係が速やかにできるようにしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3	・サービス担当者会議やかけはしシートにて情報の共有を行った。	・全職員でタイムリーに共有できるよう体制を整える。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		・生活介護事業所に移行した児は、支援内容等の情報を共有するとともに、生活介護事業所にて児童、職員ともに生活介護事業所にて過ごす時間を設けスムーズな移行に努めた。	・対象児がいる場合には積極的に対応をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	・定期的に外部研修の機会を設けている。	・児童発達支援センターと多機能で運営をしている。児童発達支援センターの職員と合同の研修に今後も参加をしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	・児童発達支援やこども園の幼児との交流を図った。	・外部評価での意見を参考に、地域の他のこどもとの関わりについて模索していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	・事業所として自立支援協議会（区・市）、放課後連絡会に参加をしている。	・自立支援協議会について、職員が知る機会を設けていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・お迎えや自宅送り時にこどもの様子を伝えたり保護者からの話を聞いている。	・利用日の支援終了後の時間では時間が限られているため個別に時間を設けていけるように検討をする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	・テーマ別保護者座談会の開催をした。	・玄関掲示等と活用し保護者に研修案内の情報提供を行う。 ・座談会の際に勉強会を企画していく。
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	・契約時や新年度説明会にて保護者に説明をしている。	・特定の職員だけではなく正職員全員が説明することができるように理解を深める取り組みをする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・こどもやご家族の意向を確認する機会を設けている。	・日々の関わりを大切にしながら、聞き取った意向の真意を職員で考えていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		・面談にて計画書を提示しながら説明をし同意を得ている。	・支援計画内容の経過が伝わるように丁寧な説明に努めていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・お迎えや送迎時、面談にて応じることが多い。今年度はテーマ別保護者座談会を開催した。	・お迎えや送迎時の時間だけではなく、タイムリーに面談を設定できる仕組みを整えていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	・親子行事や保護者座談会、きょうだい施設開放日、きょうだいイベント参加の機会を設けた。 ・行事の際にはきょうだい児の参加希望も聞き取りをしている。	・きょうだい施設開放日を設けることができたので、きょうだい同士の交流の場のあり方を検討していく。

説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・苦情対応マニュアルに沿って対応をする。 ・相談等があった場合には職員間でも情報を共有し対応をしている。	・子どもや保護者からの声を受け止め職員間で共有をし対応できるように努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		・活動内容は次月の利用予定表や長期休みの予定にて案内をしている。 ・活動の様子はコドモン（情報共有アプリ）にて週1回配信をしている。	・9月から利用予定表に活動内容を記載している。また、10月から活動の様子を週1回コドモン（情報共有アプリ）で配信を始めた。取り組みを継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・規則に従い個人情報の管理をしている。	・引き続き取扱いには十分に留意し、全職員で取り組んでいく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	1	・子ども達とは言葉だけでなく視覚的にも伝わる方法を用いている。保護者へはわかりやすい説明を心がけている。	・全ての子どもや保護者に配慮できるように全職員で共通認識を持つことと、関係性の構築にも努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	・和合せいれいの里としてまつりや行事に招待をした。	・児童発達支援センター利用児の保護者を行事に招待をした。地域との関わりの検討を継続していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・マニュアルを策定し職員に周知をしている。 ・場面を想定した訓練の実施を定期的に開催している。	・訓練が実践に結びつくように訓練を繰り返していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・業務継続計画（BCP）を年1回見直しをし、定期的に研修や訓練の実施をしている。	・和合せいれいの里全体として運動した取り組みができるように研修、訓練を重ねていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・利用開始前に確認をし看護師とも情報共有をしている。	・服薬は、看護師とも情報共有をして対応をすることを継続していく。服薬のルールの沿って対応をしていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・学校に提出をしている生活管理票を基に医師の指示に従い管理栄養士、看護師と連携を対応している。	・医師が記入をした生活管理票を基に、看護師、管理栄養士と連携をし対応する取り組みを継続していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・安全計画は年1回見直しを行っている。 ・安全計画に基づいた研修、訓練の実施をしている。子ども達とも安全についての話し合いを行っている。	・さまざまな場面での安全について職場会議にて共有をする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・避難訓練の様子は保護者にコドモン（情報共有アプリ）にて配信をしている。	・避難訓練の様子のコドモン配信を継続していく。安全教育の取り組みについての配信について検討をしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・クラス毎でヒヤリハットをまとめ週1回検討をしている。	・全職員がヒヤリハットの意識を持ち、ヒヤリハットを上げていくことを意識的に取り組んでいく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	・年間計画に基づき取り組みや研修の実施をしている。	・計画に基づいた取り組みを行いつつ、職員間が声を掛け合える関係構築にも努めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		・今年度、該当利用児はいない。身体拘束適正化委員会にて検討・モニタリングをする体制は整えている。	・現時点では該当利用児はいないが、必要な場合には委員会にて検討・モニタリングを行う。	